

## 論文の内容の要旨

### 論文題目「中国広東省開平市における開平碉楼の歴史と保存に関する研究」

銭 毅

#### 第一章 序章

##### 開平碉楼の定義

「開平碉楼」は、現在の開平市を中心として、五邑僑郷地区の広範囲に分布、存在し、防御機能と望楼（見張り）機能を主とし、その一部は居住する機能を兼ね備えた多層の建築物である。

##### 研究の背景

中国広東省の開平市は、中国最大規模の僑郷（華僑の故郷）—「五邑」地区の一つの都市であり、現在開平市の全域、特に農村部に現存する「開平碉楼」と呼ばれる近代の建築物は、2019棟の多くを数える（図1）（図2）。「開平碉楼」を世界文化遺産への登録申請の展開により、開平碉楼は「五邑の僑郷文化」中の身近な文化遺産の代表として、徐々に多くの人に知られるようになった。2003年から開平碉楼に対して悉皆調査を行い、研究を展開することになった。

#### 第二章 開平碉楼の起源と初期開平碉楼

##### 開平碉楼の起源

開平碉楼の起源は、以下4つの方面からの影響を受けていたことが、考証を通じて明らかになった。

①現在知られている最も古い開平碉楼は、16世紀中期に建造された三門里の迎龍楼であり、当時開平周辺の情勢は不安定であったため、民衆は自身の安全のため、防衛能力の高い建物を建設する必要があった。

②明朝初期から清朝まで、政府は「屯田地」などの辺境を充実させるための政策を実行したが、辺境省の各地の至る所に作られた開拓地には、大量の駐屯「屯堡」と「碉楼」が建てられ、各開拓地の軍民の安全を守った。この方法は全国に広範な影響を与え、開平は「屯田地」から県へと発展したが、開平碉楼の出現もこの全国的な背景と一致する。1823年の「開平県誌」の「南境図」には、軍事構造物と集落が描かれており、その中に碉楼と類似した建造物がある。

③また、開平碉楼の起源は、古代城郭建築からの影響もある。

④客家移民が広東省北部、江西省南部から開平一帯に大規模に移住してきた時期の17世紀80年代に、これらの地区で客家集落には碉楼が建設されることが非常に一般化していた。そのため、客家移民と客家碉楼が初期開平碉楼の発展と変化に影響を及ぼした可能性は非常に大きい。

##### 初期開平碉楼

開平碉楼の起源となる時期は、16世紀中期から1900年前後までとする。本論文では、この時期に建造された碉楼を「初期開平碉楼」と称する。

初期開平碉楼の特徴について以下の点をまとめる。①初期開平碉楼は、その外観・構造や建築材料において中国伝統建築の特徴を備えており、中国伝統建築の範疇に属するものというべきである。②初期開平碉楼は、外観や造りは素朴であり、様式上の特徴は基本的に防衛の用に供するためである。③初期開平碉楼は、村の公共防衛と見張るための碉楼に属する建築物と言える。④この時期の碉楼で現存するものは数少ない。

#### 第三章 近代開平碉楼の発展と変容

清朝末期から最後の碉楼を建造した 1950 年代初期まで、この時期に建造された碉楼は、「初期開平碉楼」と比べて建築技術、様式、風格、機能などの面で比較的大きな変化が見られ、外来文化や近代技術の影響を明らかに受けていると見られることから、これらを「近代開平碉楼」と称することとする。

19 世紀末から 20 世紀の初めにかけて、多くの開平籍の華僑達は、海外で数年又は数十年間肉體労働或は商売を通じて少しずつ貯蓄してきたお金を持って故郷に戻り、故郷で結婚し、子供を生み、家屋を建てたが、そのことは、彼らにとっては一番大事なことである。当時、開平の情勢は、それ以前より更に社会が不安定に陥っていたが、横行した匪賊から民衆は自身の安全を守るため、碉楼のような防衛能力の高い建物を建造する必要が高まり、そこで大量の碉楼が建てられ、家族と財産を保護した。1920 年代を建設のピークとして、その数は 3000 棟余りになった。

多くの華僑と華僑資本によって、近代開平碉楼は、その機能、建築材料、構造、様式、空間等の特徴が大きく変化した。レンガ、土、石などの伝統材料が引き続き採用されたと同時に、鉄筋コンクリート材料も広い範囲で使用されていた。進取的な社会気風と新材料の使用によって、また建築主としての華僑たちの見聞と体験を託する碉楼建築は、益々高くなる傾向となり、西洋風が主流であった。昔から続いてきた、村全体の公共防衛や避難するための碉楼—「衆楼」と見張るための碉楼—「更楼」と異なって、帰国華僑が自家の防衛と居住用の碉楼—「居楼」の建設を始めた。また、大量の華僑資本によって、開平の金融業が栄え、金融店舗などを守るために建てられた、店舗に附属する碉楼—「舖楼」が現れた。

近代開平碉楼の中で、数が一番多い居楼の特徴は、初期公共性碉楼の密閉性を高くした特徴と伝統の「三間両廊」式民家の居住性平面の空間特徴を吸収し、かつ幅広く外来の外廊空間である開放型の生活空間を取り入れた、地方的特徴を有する近代的な空間を形成した。(図 3)。

#### 第四章 開平碉楼の防衛機能と象徴性

近代開平碉楼が興隆した原因の一つは、近代の開平で横行した匪賊を防御することであり、当時の碉楼は村民の有効な防御施設として、華僑世帯或は村全体の防御に対して非常に大きな役割を果たしていた。もう一つの原因は、帰国した華僑たちは故郷に錦を飾ること、或は外国の近代建築の体験を実現するため、高く華麗な碉楼を建造し、昔日貧苦の運命と別れることにあり、自分たちの経済的な実力と社会的な地位のシンボルとして誇示した。

#### 第五章 開平碉楼の建造

開平碉楼を建造するには多額の資金が必要となる。それは当時の普通の世帯にとっては巨額な金額であり、独資で碉楼を建造することが出来る世帯は金持ちの華僑世帯に過ぎない。その他の公共碉楼を建造する資金を集める方式は、伝統的な割り勘方式と近代思想の影響を受けて、株式を買う方式が存在した。

資金を集めた後、施主は直接建築請負人に委託するか或は入札方式をとって、建設工事を落札した者に委託する。そして建築請負人と工事の契約を締結する。

碉楼の建築請負人と設計者の中に建築の専門家は極めて少なく、その殆どは当地の職人達であった。この職人たちは、建築の教育を受けてはいないが、自らの「大量の碉楼など近代建築の建造」という実践の中で、直感からの習熟と理解によって、近代的な洋風な碉楼を設計したのである。

開平碉楼の建設工事の過程では、まず基礎工事に入る。基礎工事は大体先に大きい穴を掘って松杭を打ち、杭と杭の隙間に石材或はコンクリートを埋めて、その上に青レンガを敷く。基礎が完成した後で足場を組み立てて、それから建築主体の構造工事を行い、最後に内部と外部

の装飾の仕上げをする。これが基本的な工事工程であった。

## 第六章 開平碉楼及び僑郷社会と空間の近代変容

素朴な機能主義の「初期開平碉楼」は、立派な洋風の「近代開平碉楼」へと変化し、ひいてはその変化が僑郷空間の地位転換を表したものとなり、碉楼は完全に伝統的な村の空間構造に属した建造物から僑郷農村空間の主役となった。背後には19世紀末～20世紀初頭にかけて帰国した華僑階層が、海外から持ち帰った巨額資本によって経済面で僑郷の主導的地位を占有していき、後に他の各方面にわたり大きな影響力を持つようになった。そして僑郷社会にかつてない繁栄をもたらし、当然こうした帰国した華僑階層は高い社会地位を得たわけである。この過程で、数百年、千年にも亘って続いてきた封建的宗族倫理制度を基礎とした社会秩序が少しずつ動揺し始めた。次第に資本主義の民主思想を取り入れた資本力支配型の宗族システムが出現し、社会のイデオロギーを塗り替えようとした。碉楼はまたその華僑と華僑家族を中心とした階層の地位を表す、経済的、物質的象徴でもある。(図4)。

その一方で華僑資本への過度の依存は、僑郷の近代社会の空間構造に根本的な脆弱性をもたらすことも意味する。繁栄は開平碉楼建造の勢いと連動し、短いものであった。太平洋戦争の暴発によって、多くの華僑や華僑家族が国外へ逃亡し、華僑資本と為替送金が断ち切れ、僑郷の経済も「行き詰まった状態」に陥り、大量の碉楼は廃屋の運命を辿ることとなった。

## 第七章 開平碉楼の現状および保存対策

開平碉楼、その中の多くは数十年の間廃屋状態となり、又は不適切な使用をしてきたことから、碉楼及びその周辺環境に対し、速やかに適切な保存・再生策を講じていくことが必要である。筆者は今後開平碉楼の保存・再生及び管理について以下の具体的な対策を提案する。

「非常に多くの数が広い範囲に分散して存在する碉楼に対して、ランクとエリアを分けて保存活動を推進することにより、開平碉楼に対して全面的な保存が可能となる。同時に、碉楼に関する周辺の有形・無形の文化的遺産を保存することも重視する。碉楼の異なる状況に合わせて、各碉楼独自の再利用・再生対策を実施し、それらの活力を回復させ、更に良い保存を目指す。全体的な管理は、GISシステムを基礎として、2004年～2005年の悉皆調査のデータと情報を利用したデータベースにより、開平碉楼の保存と管理システムを構築し、効率的な管理を実現する。」

## まとめ まとめと今後の研究

長い間、中国の近代建築歴史の主要な研究内容は、主に少数の開放された都市をその代表とし、西洋の建築文化の受動的な受け入れ同時に、植民化の強制性による西洋の近代化国家から直接導入した新たな建築体系に関するものである。

これに対し、海外で成功し、故郷の開平に帰った出稼ぎ農民達が、自身の安全を守るため、そして故郷に錦を飾るために建てられた開平碉楼は、五邑地方の伝統的碉楼と民家の基礎の上に発展、継続し、近代的な外来の建築技術と建築文化を自発的に取り入れてきたものであり、これは中国民間建築の近代化において極めて典型的且つ特異な実例である。